

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

草津市立志津小学校 教諭 岡崎 美紀

1. 単元名 smile 給食プロジェクト～フードロスの現状からわたしたちにできることをやってみよう～

2. 単元の目標

- ・身近な給食のフードロスに関する調査の中から見えてきた現状と課題に対する解決に向けた探究活動を通して、「食」は自分たちの生活と深く関わりがあることを理解する。(知識及び技能)
- ・課題の解決に向けて自分たちにできることを考えたり、給食の魅力についてゲストティーチャーから学んだことや調べたことを広めていけるように必要な情報を収集する。(思考力・判断力・表現力等)
- ・自分たちが育てた野菜を用いた調理体験などを通して、「smile 給食」を提案していき広く発信していくことができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、フードロスの現状から「食」に焦点をあて、自分たちにできることとして身近な給食の残食を減らしていけるような「smile 給食」の献立づくりを教材として取り上げる。

まずは、自学級の給食残食を調べる中で、残食の行方について考えられるようにし、給食センターの栄養教諭に給食をどんな気持ちで作っているのかについて、また市内の残食現状について学ぶことで関心を高めていくようにする。

また、身近なフードロス問題について知ったり、自分たちにできることを考えていく機会を持てるように立命館大学学生団体 BohNo (ボーン) の出前授業を取り入れていくことで、自分たちの生活の中にフードロスが起こっていることに気づくとともに、自分たちにできる行動を考えていくことで自分事にしていけるようにする。

さらには、地域の飲食店経営者にメニュー作りに対する思いやお店の残食状況などを聞く機会を持ちながら、フードロスの現状から自分たちにできることを考え、自分たちだけでなく「食」を通して多くの人が笑顔になる活動を考えていく意欲を高めていくようにする。

(2) 児童観

本学級の児童は、第4学年において、当時の5年生よりフードバンクの呼びかけを聞いて取組に協力している。また、畑にあるコンポストについて6年生より引継いだところであるので、「食環境」や「フードロス削減」という言葉を耳にする機会があり、関心を持つ様子も見られる。

また、第4学年のときに、環境問題について考えて全校のみんなに空き缶回収を呼びかける取り組みをしてきたので、身の回りの実態から課題を見つけて、友だちとの対話を通して考えを練り上げる中で自分たちにどんな行動をすることができるかを考えられるようになってきた状況がある。

社会科や理科の学習の中でも食に関わる学びは多く、具体的に考える機会も増えているので、本課題を取り上げる意義は大きいと考える。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず昨年度の5年生が全校放送で呼びかけていたことを想起することから「フードロス」という言葉について知っていることを探っていく。身近なフードロスに給食の残食があるので、給食の残食調べをすることを通して関心を持てるようにしていきたい。給食の残食調べをしたことより、どうしたら減らせるのかを考えていく。その際、給食センターの栄養教諭より給食をどん

な思いで作っているのかや、残食がどのように使われているのかなどの話を聞く機会を設定していきたい。

次に、身近なフードロスについて考えていけるように、立命館大学の学生団体をゲストティーチャーに招き、フードロスについて調べたり、フードロス対策について考えたりしながら啓発活動（ポスターづくり）を行うことを通して、自分と家族、地域にも関わる身近なことであると意識づけられるとよい。また、地域の飲食店経営者に、「食べること」はどのようにして大事だと思うのか、お客さんにどんな思いで食べて欲しいのかなど、工夫していることについて聞くことを通して、どんな工夫をすると残食が少なくなるのかを考える機会を持てるようにしていく。

そして、食を通してみんなが笑顔になれることを目的とし、残食が減らせる「smile 給食」づくりに取り組みたいと考える。飲食店経営者に野菜づくりについて教えてもらいながら、自分たちで育てた野菜でみそ汁づくりをしたり、稲刈りをした米でおにぎりづくりをしたりすることからも自分たちの生活に身近な課題として「食環境」があることに気づいていき、自分たちにできる発信・行動につなげていけるようにする。

さらには、「食」に対する意識調査を自分とまわりの人と二つの視点で行い、自分たちの学びから行動・発信することで、まわりの人の意識が変化することを期待して活動をすすめていきたいと考える。

(4) ESD との関連

本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

相互性・・・「食」は自分たちの生活と深く関わりがあることを理解する。

責任性・・・フードロスを続けた結末を考えることにより、自分たち一人一人の行動も大切であることを考える。

本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

未来像を予測して計画を立てる力

このままフードロスが増えていくとどうなるのだろうか、フードロスを減らすためにはどうしていくといいのだろうかと考える。

他者と協力する力

ゲストティーチャーからの学びで現状に気づいたり、自分たちができそうなことを考えたりする。ゲストティーチャーからの学びを通して、自分たちだけでなく地域や家庭にも取り組みを広げていけるようにする。

進んで参加する態度

フードロスを減らすとみんなの笑顔につながることに気づき、smile 給食の献立を進んで考えていこうとする。

本学習を通して育てたい ESD の価値観

自然環境、生態系の保全を重視する

「食」という自分の生活に欠かせないものをこれからも大切に守っていく。

達成が期待される SDG s

1 2 持続可能な生産と消費

4. 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
<p>①身近な食に関する学びの中から見えてきたフードロスの現状と課題は、自分たちの生活と関わっていることを理解している。</p> <p>②活動を通して調べたり考えたりしたことについて、相手意識や目的意識を明確にしながらまとめる方法が分かっている。</p> <p>③食環境に対する自らの認識の高まりは、フードロスの現状と課題から見えてきたことをもとに自分たちの生活との関わりについて探求的に学習してきたことの成果であると気付いている。</p>	<p>①フードロスの現状と課題に関心を持ち、解決に向けて自分たちにできることを見通している。</p> <p>②「smile 給食」を提案するために必要な情報を、手段を選択して収集している。</p> <p>③「smile 給食」プロジェクトに向けて収集した情報を取捨選択したり、複数の情報や考えを比較したり、関連付けたり、焦点化したりしながら、情報を整理している。</p> <p>④伝える相手や目的に応じて自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。</p>	<p>①フードロス問題に関心をもち、自分自身の生活を見つめ直し、探求活動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>②自分と異なる友だちの意見や考え、専門家の意見を生かしながら、協働して問題解決に取り組もうとしている。</p> <p>③課題解決に向けた自分の取組や状況を振り返り、できることを見つけ、「smile 給食」プロジェクトに向けての準備に粘り強く取り組もうとしている。</p>

5. 単元の指導計画 (全15時間)

学習活動	○学習への支援	○評価・備考
<p>1. 給食の残食調査から気付いたことを出し合う。</p> <p>・野菜や魚が多いことに気付く。</p>	<p>○昨年度の5年生の取り組みからも「フードバンク」については知っているので、残食調べを通して、給食の残食はどうなるのかを気にしたり、フードロスについて関心を持てるようにする。</p>	<p>(イ) ①</p>
<p>2. どうしたら身近なフードロスを減らすことができるのかを考える。</p> <p>・給食センターの栄養教諭から話を聞く。</p> <p>・立命館大学の学生団体と「フードロス」について考える。</p> <p>①調査活動(身近な場所のフードロスについて調べる。)</p> <p>②仮説の作成(フードロス対策を考える。)</p> <p>③啓発に取り組む(ポスターを作る。)</p>	<p>○給食がどのように作られているのかや、どんな思いで作られているのかを知るとともに、残食がコンポストに入って野菜作りにつながっていることを知る機会とする。</p> <p>○調査活動、仮説の作成、啓発活動に取り組む中で、「フードロス」が身近な課題であることや減らしていくために自分たちにできることを考えていけるようにする。</p>	<p>(ア) ①</p> <p>(ウ) ①</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の飲食店経営者の話を聞く。 ・「食」に対する現在の意識調査を行う。 (自分・まわり) 	<p>○実際に飲食店の方の話を聞くことで、フードロスを減らす手立てを考えたりや食に携わる方の思いに触れる機会にできるようにする。</p> <p>○意識調査の結果が改善できるように自分たちができる取り組みを考えていこうと意識づけできるようにする。</p>	<p>(ウ) ②</p> <p>(ウ) ③</p>
<p>3. 野菜づくりに取り組み、調理実習でみそ汁作りを行う。</p>	<p>○家庭科の学習と合わせて、収穫したお米でおにぎりづくりと自分たちで育てた野菜でみそ汁作りを行い、自分たちで作ったものを食べて感じたことを総合的な学習の時間の学びにつなげていけるようにする。</p>	<p>家庭科評価</p>
<p>4. みんなが食べて笑顔になり、残食が減らせる「smile 給食」を提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食センター、ポーノと連携して献立づくりに取り組む。 ・レシピ案を家庭、地域、飲食店へも提案する。 ・「食」に対する 2 回目の意識調査を行う。(自分・まわり) 	<p>○フードロスを減らし、みんなが笑顔になれるような給食献立を考えて、草津市の学校給食に「志津小 smile 給食」として提案できるように活動をすすめる。</p> <p>○活動を進める際、グループに分かれて課題を設定したり、探究活動を進めたりしていくが、質問があるときに今までにお世話になったゲストティーチャーに問い合わせをすることができるようしておく。</p> <p>○食に対する 2 回目の意識調査を取り、取り組んできたことがまわりの人へも影響を与えることできることを感じられるようにしたい。</p>	<p>(ア) ② ③</p> <p>(イ) ② ③</p> <p>(イ) ④</p> <p>(ウ) ③</p>